

2026年度 外国人留学生選抜 「専門試験」出題の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験 作品 利用
日本画			
油画	油彩の実技試験では、試験会場の中央の床の上にクラフト紙を中心にものを散乱させた。シワによって生まれる起伏や、広げられた平面など、巻クラフト紙ならではの表情を作った。その紙の下には、倒した椅子やツボを見え隠れするように配置し、また、紙の上には花瓶とそれを収納する箱も敢えて並べるように設置した。全体として、梱包材ともの、さらには室内の様々な要素も同列で同等に捉えられるような状況にすることで、受験生が何に気づき、どこを見どころとしたか、その意識を問うことをねらいとした。また、実技試験は、デッサンは行わず油彩のみである。描く対象を比較的わかりやすくすることで、基本的なものを捉える力や描写力をみることも出題の意図である。	実技作品の制作意図や今後の制作の方向性、将来の展望などを質問し、日本語によるコミュニケーションの力も判断材料とした。	●
版画	選択A：色彩表現 色彩表現の課題では、入学後に取り組む版画制作やデザイン系の授業に必要とされる色彩表現力に加え、与えられたモチーフからどのように発想を広げ、それを表現へと展開していく力を総合的に評価しています。モチーフの特徴を捉え、各自のテーマや発想のもと、色彩でどのように表現し伝えようとしているのがポイントです。 ・理解力＝出題内容をしっかりと理解し、積極的に取り組んでいるか ・発想力＝出題から造形化されるアイデアが優れているか ・表現力＝アイデアをより効果的に造形化する力があるか ・完成度＝造形的に充実し、説得力のある表現になっているか ・独創性＝独自の視点、感覚をもっているか 選択B：コラージュ（写真） コラージュは色彩表現とは異なり、単なる構成的な造形表現ではありません。複数の映像を組み合わせ、編集することの面白さをどのように引き出すかが肝心です。今回の出題においては、同じ雑誌2冊を素材とすることで、2つの同一イメージの関係をどのように構築できているかを評価のポイントとしています。 ・映像感覚＝写真イメージに対してどのようにアプローチしているか ・編集力＝写真を選択し、組み合わせ、編集する力があるか ・構想力＝作品のテーマ、コンセプトを構想する力があるか ・独創性＝独自の視点、感覚をもっているか ・完成度＝コラージュとしての完成度があるか	外国人留学生面接試験では、提出作品とポートフォリオを前に、専任教員との質疑応答の中で以下の点をポイントとし評価を行います。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	●
彫刻	立体造形など技術的修練が必要とされるものと、その場での発想力、両方をバランスよく見る意図で出題している。新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。 社会問題に強く関心を持つ者、ひとつのワードから自由に想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。 学生が「現在持っている力」も見るが、入学後に「どれだけ伸びるか？」＝自己の関心をいかに広く社会と接続していけるか？が一番の評価基準になる。	・実技試験作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること ・ポートフォリオの内容について個別質問	●
工芸	・理解力＝問題内容の理解が正しいか ・描写力＝構図、立体認識ができているか ・観察力＝物質感を的確に表現できているか ・空間把握＝物と物の位置関係が的確か ・個性＝独自の表現性のあるデッサンか	・学科の特色への理解 ・志望動機が明確であるか ・自分の考えで語れるか ・学業への熱意 ・質問についての理解と、返答の的確さ	●
グラフィック デザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	×
プロダクト デザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイル デザイン	限られた試験時間の中でも、受験者が自分の考えや表現力を出しやすいように、わかりやすいモチーフを2つ選んでいる。1つ目は、紙でできたトング（食品などをはさむ、V字型の道具）である。金属製と違って光が反射しにくく、形が見えやすいので描きやすい。先端の形に特徴があり、工業製品らしい「かたさ」も表現できる。2つ目はライムである。レモンより丸みが出やすく、球に近い形なので、初心者でも形を取りやすい植物モチーフになっている。この2つを組み合わせることで、構図のバランスの取り方、鉛筆や筆の使い方、形を正確に描く力（デッサン力）、色づかいなどが表れやすい。受験者が、自分の得意な部分＝作品の「見せ場」に時間と表現力を集中できるように工夫されている。	面接では、基本的に「美術やテキスタイルについて、あなたはどのように考えているか（どんな視点を持っているか）」を聞きたい、という意図があります。持参した作品の説明が終わればそこから話が広がり、質問の範囲が大きくなることは多くあります。こうした幅広い質問に答えるには、日ごろからの日本語の勉強と並行して体験・経験・知識の積み重ねが大切です。積み重ねがあるほど、自分の言葉で具体的に語れるので、話にリアリティと説得力が出ます。だからこそ、普段の生活の中で「きれいだな」「よくできているな」と思う作品やデザインに出会ったら、そのままにせず、理由を考えて調べてみましょう。気づいたことを自分の知識や考えに変えていくことで、面接で話の厚みが出せるようになります。	●
建築・環境 デザイン	建築・環境デザイン学科が対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。 その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行や広がり伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	・留学の意図や目標が明確であるか ・デザイン、アートに関連した基礎知識があるか ・基本的な表現技術が身についているか ・日本語による日常的なコミュニケーションが可能か ・学科、コースの制作、教育内容やカリキュラムを理解しているか	●
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース			
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対する的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は、他の学生にとっても大きな刺激になります。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力＝問題の把握・理解が正しいか ・観察力＝日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力＝イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力＝構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視 点＝事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	ウォーミングアップ： ・日本語での指示の聞き取り能力、全員での協力作業。 舞踊： ・身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているか。 ・歩行、停止などの簡単な動き。特定の音楽と限定された範囲での身体表現の創作と発表。 演劇： ・言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。また発想力や空間への把握能力も確認。 ・台詞の発話、演技、ダイアログでの表現能力。 集団創作： ・グループワークにおいて、コミュニケーションにより創作を発展させる能力の確認。 ・身体を用いた表現の創意工夫、発表の能力。 共通する主な出題の意図は以下。 ・受験生の、理解力、意欲、独創性、観察力、身体認識能力の確認。 ・日本語能力の確認。	・主に自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機、表現を学ぶ大学の中で多摩美を目指す意志。 ・実技試験の感想、日常的にどのような事柄に興味があるか。 ・現在までの活動歴、表現の経験について。 ・大学進学後の自身の活動領域の見通しについて。 他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース			